

ホスピタルアートのある街・堺 デジタルアートとダンスの展開

#ホスピタルアート
#ダンスの可能性



亀井ゼミ生が施設利用者の前でダンスを披露

DATA

- **主な連携先・メンバー**
堺市 耳原総合病院アートセクション 室野 愛子氏 衛藤 桃子氏/ダンサー 村木 実来氏/堺市 舞踏家 新井 春双氏/演出家・ダンサー 庄 波希氏/ダンサー・ダンス講師 小堀 愛永氏/“N” Company 末澤 紀子氏/関西大学社会安全学部 亀井ゼミ
- **活動地域**
大阪府堺市、大阪市
- **活動期間**
2024年1月~2025年3月
- **活動資金**
堺市と関西大学の地域連携事業/関西大学経済・政治研究所「関西ファミリービジネスのBCMと東アジア戦略研究班」

目的

従来から続く堺市と関西大学の地域連携事業を通じて、耳原総合病院を中心に、堺市のホスピタルアート実施団体と連携を行ってきた。本プロジェクトは、新たにダンスに焦点を当てた。

連携に至る経緯

2018年より、ホスピタルアートの取り組みが先進的な堺市の耳原総合病院との連携を開始した。堺市との地域連携事業では、耳原総合病院前院長・奥村伸二氏や、チーフ・アートディレクター室野愛子氏の講演会などを開催してきた。

亀井が2024年3月に関西大学出版課から刊行した『日仏対訳 フランス医療機関におけるアート』の中で、コロナ禍における耳原総合病院の取り組みを取り上げた。さらに今回、衛藤桃子氏プロデュースによりダンスに焦点を当てて連携を行った。

活動内容

大きく3つの企画を実現した。
2024年3月4日、ひまわりの家にて亀井ゼミ生が施設利用者の前でダンスを演じた。
2025年2月27日、堺市と関西大学の地域連携事業 Art with Hospital in Sakai 堺市医療機関とアート（デジタルアート、ダンスの可能性）連続講演会2回目を開催。
末澤紀子氏による「ダンスの可能性 いかにN'ismを世界一にしたか」講演、ゲストにはN'ismのダンサーによるダンス実演も行われた。

2025年3月4日、耳原総合病院にて「患者さんとコンテンポラリーダンスを鑑る会」開催。
医療現場におけるアートの取り組みと癒しの重要性を訴える企画となった。その実演としてプロのダンサーを招き、鑑賞者との交流をしながら、ダンスパフォーマンスを行った。新型コロナウイルス感染症の影響で院内でのレクリエーション活動が著しく減る中、入院生活の中で芸術文化に触れる大切さを体験してもらった。



「ダンスの可能性 いかにN'ismを世界一にしたか」講演 末澤紀子氏



庄波希氏のダンスパフォーマンス



小堀愛永氏のダンスパフォーマンス

活動の成果

- ▶▶ 福祉医療施設での社会安全学部亀井ゼミ所属学生のダンサーによるダンス企画実現
- ▶▶ 末澤紀子氏講演の実現、新井春双氏との交流
- ▶▶ 耳原総合病院でのダンス企画実現

今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ ホスピタルアートの一つとしての、さらなるダンスの可能性の探求
- ▶▶ 「日仏対訳 フランス医療機関におけるアート」（関西大学出版部 2024年3月）を補完する事例紹介

連携先からの一言

「パフォーマンスを提供しているつもりが、皆さんの熱いまなごしをこちらの方が受け取っている感覚でした」

(ダンサー 庄 波希氏)

「与える側と思っていたが、こちらが感動した。患者さんは健康な方より、体は弱っているかもしれない。でも最前列と一緒に踊ってくれる人もいて、元気だなと思った。もう会えないかもしれない。今日だけのはかなさがある。だからこそ、今日この一瞬に集中した」

(ダンサー 小堀 愛永氏)

社会安全学部 教授 亀井 克之 Kamei Katsuyuki



専門は経営学・リスクマネジメント論。博士（商学）。フランス DEA（経営学）。日本リスクマネジメント学会理事長。ファミリービジネス学会理事。特定非営利活動法人コミュニアル理事。

